

No.004 (不定期刊)

"Great Wall" Street Journal

# 長城街日報

～中国株の現場から～



東洋証券株式会社  
上海駐在員事務所 所長  
奥山 要一郎

2007年入社。本社シニアストラテジスト等を経て、2015年より現職

## 飲食男女

上海で週1回は通う日系のとんかつ専門店がある。ジューシーな豚肉にオリジナルソースが絡み、味も本格的だ。そこで熱心に働く1人の中国人従業員にいつも目を奪われる。挨拶などの接客態度は抜群。他のスタッフに指示を出すばかりでなく、自らもホールに出て、ご飯やキャベツのおかわりを聞いて回る。彼が勤勉すぎるのか、他の店員の動きが緩慢なだけなのか。飛び抜けて能力が高い彼を、私はいつしか「バイトリダー」と呼ぶようになった。

★ ★ ★ ★ ★

中国で日本料理店が絶好調だ。口コミサイト「美团点评」によると、中国国内の日本料理店は6万店超に上るといふ。確かに、街を歩くと「日本料理」の看板を掲げる店が多い。日本の牛丼、ラーメン、カレーなどのチェーン店はもちろん、本格的な寿司や懐石料理を出す専門店から、中国人が勢いで開いた「なんちゃって日本料理店」まで何でもござれ。同僚とのランチから、デート、1人メシ、接待まで、様々なシーンで日本料理が登場する。

人気は寿司や刺身などの新鮮な海鮮。「生モノは食べない」という層もまだ多いが、都市部の若者やホワイトカラー層の間では普通に食べられている。日本旅行の経験から、「本場の味を地元でも」というノリのような。不動の人気No.1のネタは「三文魚(サーモン)」。コスパが良く、程よい脂の乗りがウケているらしい。寿司屋でサーモンばかりを頼む人もいるほどだ。また、これまた脂が乗っている鰻を出す店も増えてきた。味は千差万別だが、炭火焼や秘伝のたれをアピールする専門店もある。



日本の人気コンテンツの名を借りた飲食店も登場……

牛丼の「すき家」、カレーの「CoCo 壺番屋(ココイチ)」、ラーメンの「一風堂」などは、上海人の外食ライフにすっかり溶け込んでいる。牛丼屋におでんのメニューがあり、ご飯をうどんに変えて「カレーうどん」にできるなど、現地ならではの特色もある。ちなみに、中国人は大体「やわらかめ」でラーメンをオーダー。「バリカタ」派の私は、いつも首をかしげてしまう。その昔、香港でパスタを頼むと、決まって「アルデンテ」とは対極のフニャフニャ麺が出てきたものだ。所変われば好みも異なる。

さて、焼肉の評判も高い。高級肉を提供したり炭火で焼いたり各店工夫を凝らしており、有名店は週末になると予約も取れないほどの人気ぶり。「日本発」という看板を掲げる店ほど客の入りが良い。上海の仙霞路は日本の焼肉専門店が軒を連ね、一部では「焼肉ストリート」と呼ばれている。

同じ肉系では、鉄板焼きも根強い人気。目の前で焼いてくれるライブ感がたまらない。古い話になるが、1980～90年代にかけてアジア圏では鉄板焼きが日本食の代名詞の一つだった。なぜか。背景には、1984年公開の香港映画「新 Mr.Boo! 鉄板焼」の影響があると(勝手に)思っている。主演の許冠文(マイケル・ホイ)による曲芸まがいのコテさばき。ブルース・リーの「アチョー」という“怪鳥音”がピッタリ当てはまるほどの腕前だ。ぜひご覧ください。

★ ★

最後は、鉄板焼きの話で「アツク」になりました。いずれにせよ、中国人は今、日本食にハマっています。中国人と食事をする機会があったら、ぜひ本場の日本料理を堪能させてあげてください。テッパンです。

文中の見解は全て筆者の個人的意見です。写真、グラフ、表なども全て筆者によるものです。

最終頁に重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

# ◆ 注 意 事 項 ◆

東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第121号  
 日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 加入

## 外国証券等について

・外国証券は、日本国内の取引所に上場されている銘柄や日本国内で募集または売出しがあった銘柄等の場合を除き日本国の金融商品取引法に基づく企業内容等の開示が行われておりません。

## 手数料等およびリスクについて

### ① 国内株式の手数料等およびリスクについて

・国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2420%（税込み）、最低3,240円（税込み）（売却約定代金が3,240円未満の場合、約定代金相当額）の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

### ② 外国株式等の手数料およびリスクについて

・外国株式等の売買取引には、売買金額（現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買の場合には加え、売りの場合には差し引いた額）に対して最大0.8640%（税込み）の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式等は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

・国内店頭取引については、お客さまに提示する売り・買い仕切価格は、直近の外国金融商品市場等における取引価格等を基準に合理的かつ適正な方法で基準価格を算出し、基準価格と売り・買い仕切価格との差がそれぞれ原則として2.75%（手数料相当額）となるように設定したものです。当該仕切価格には手数料相当額が含まれています。

### ③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

・投資信託のお取引にあたっては、申込（一部の投資信託は換金）手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

## 利益相反情報について

この資料を掲載後、掲載された銘柄を対象としたEB等を東洋証券（株）が販売する可能性があります。

東洋証券（株）および同関連会社、またその役職員はこの資料に掲載されている企業の証券を保有する可能性、取引する可能性があります。

## ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をご覧ください。

この資料は、東洋証券（株）が各種のデータに基づき投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成したもので、投資勧誘を目的としたものではありません。また、この資料に記載された情報の正確性および完全性を保証するものでもありません。この資料に記載された意見や予測は、資料作成時点の見通しであり、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

この資料に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、東洋証券（株）は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。株価の変動や、発行会社の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがありますので、投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

なお、東洋証券（株）および同関連会社の役職員またはその家族がこの資料に掲載されている企業の証券を保有する可能性、取引する可能性があります。

この資料の著作権は東洋証券（株）に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。

東洋証券株式会社

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1  
 TEL 03 (5117) 1040

<http://www.toyo-sec.co.jp/>

2019年4月12日  
 審査部審査済